

平成27年度 業績のご報告

平成27年度は、創立90周年といった大きな節目を迎えるとともに、新たに策定した中期経営計画（平成27年度～29年度）の初年度として、目指すべき金庫像である、

「信用金庫の独自性・特性を活かしながら、お客さまや地域の成長・発展等に資する取組みを推進していくことにより信用金庫の存在意義を高め、地域社会において必要とされる金融機関であり続ける。」

の実現に向けて、期初より諸施策に意欲的に取り組むことにより、次のような成果を収めました。

預金積金・貸出金・預かり資産の状況

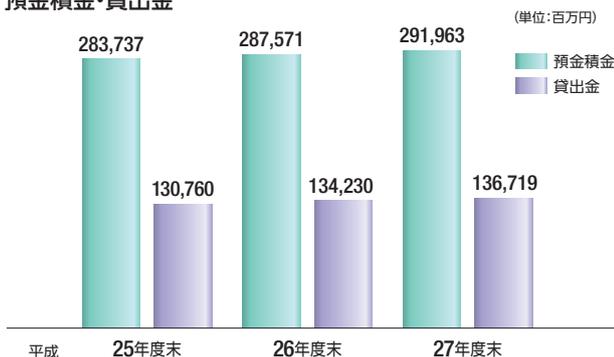
平成27年度末の預金積金残高は、流動性預金を中心に順調に推移したことにより、前年度末より43億92百万円増加の2,919億63百万円となりました。

貸出金残高は、地域の公共団体および中小企業ならびに個人のお客さまに対して、必要な資金を円滑に供給するため積極的な営業活動に努めた結果、個人の消費者ローンや地方公共団体への貸出が増えたことか

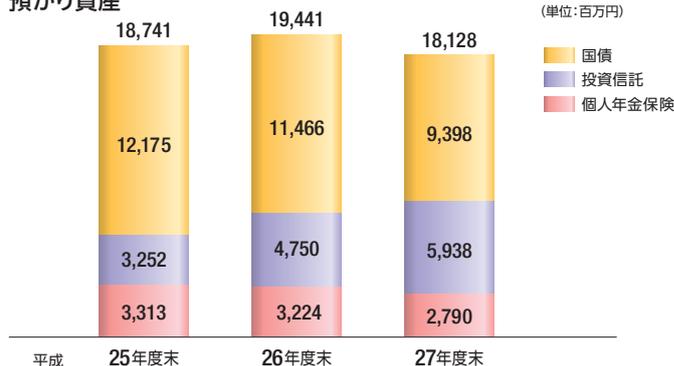
ら、前年度末より24億88百万円増加の1,367億19百万円となりました。

平成27年度末の預かり資産残高は、投資信託は増加したものの、国債の満期償還や低金利、さらには、マイナス金利政策等の要因により前年度末より13億13百万円減少の181億28百万円となりました。

預金積金・貸出金



預かり資産



有価証券・預け金の状況

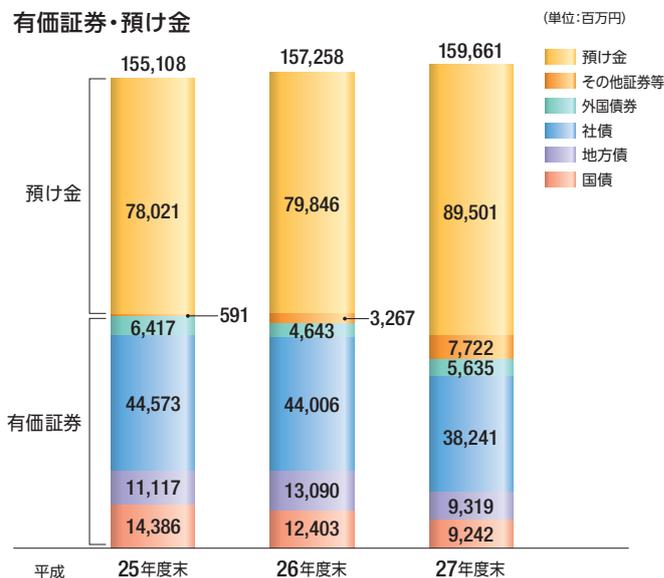
皆さまからお預かりした預金は、貸出金としての運用のほかに、有価証券や預け金としても運用しています。

有価証券は、安全性と流動性を最優先するという方針のもと、国内債券を中心に運用を行っています。期末残高は、一部を預け金へシフトしたことから前年度末より72億51百万円減少し701億59百万円となりました。

預け金は、主に信用金庫の中央金融機関である信金中央金庫で運用しており、期末残高は前年度末より96億54百万円増加の895億1百万円となりました。信金中央金庫は総資産30兆円を越す国内最大級の金融機関であり、信用格付けもAA*を取得しています。

※日本格付研究所(JCR)28年4月末現在

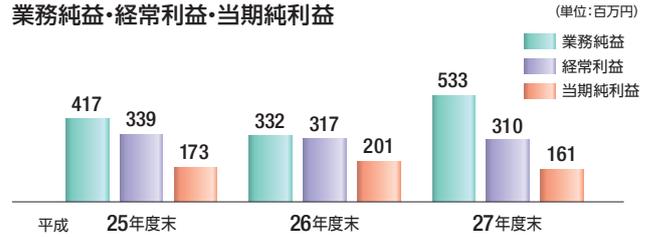
有価証券・預け金



損益の状況

収益の状況は、資金需要の低迷・金融機関間の競争激化および市場金利のさらなる低下等により経営環境は厳しさを増していますが、資金運用力の強化および経営の効率化ならびに経費の節減に引き続き努めた結果、当期純利益は1億61百万円となりました。

業務純益・経常利益・当期純利益



自己資本の状況

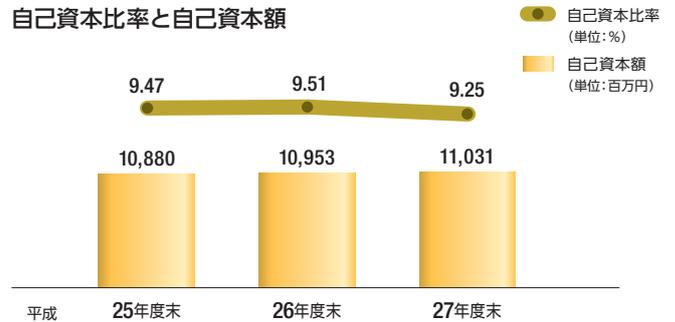
自己資本比率は金融機関の健全性・安全性を計る重要な指標の1つです。

平成27年度末の自己資本額は、前年度末より77百万円増加し、算出式の分母にあたるリスク・アセット額についても、総資産額の増加により前年度末比増加となりました。

この結果、平成27年度末の自己資本比率は、自己資本額の増加率以上に貸出金等リスク・アセット額が増加したことから、前年度末より0.26ポイント低下し

ていますが、信用金庫など国内で営業する金融機関に求められる4%を大きく上回っています。

自己資本比率と自己資本額



金融再生法上の不良債権の状況

平成27年度は不良債権額の減少を図るため、企業再生支援や延滞債権の回収促進などを行うとともに、厳格な自己査定による不良債権の適切な償却・引当を行った結果、不良債権は前年度末より3億57百万円減少し、77億19百万円となりました。

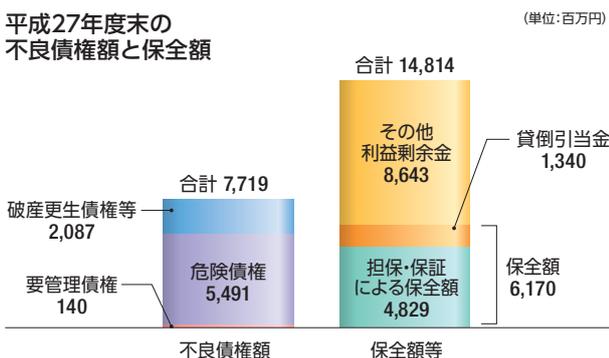
このうち担保や保証・貸倒引当金により61億70百万円が保全されており、未保全額となる15億49百万円も、その他利益剰余金86億43百万円により十分カバーされていることから、不良債権に対する備えは万全です。

また、この不良債権は、担保処分による回収見込み額や貸倒引当金を控除する前の金額であり、不良債権の全額が損失となるものではありません。

平成27年度の不良債権比率は経営環境の落ち着きに支えられ経営改善・業績回復が図られたことにより前年度末より0.37ポイント減少し、5.62%となりました。

なお、不良債権額から貸倒引当金13億40百万円を控除した場合の不良債権額は63億78百万円であり、実質的な不良債権比率は4.64%です。

平成27年度末の不良債権額と保全額



金融再生法に基づく不良債権比率と不良債権額

